

まほらいな市民大学の様子

令和8年6月7日（日）郷土芸能鑑賞

『早稲田人形浄瑠璃 三番叟・本朝廿四孝 十種香の段』

阿南町 早稲田人形保存会の皆さん 会長 伊藤 収二 氏



早稲田人形は、文化・文政の頃の資料が残っており、200年以上も前から伝承されて来た人形芝居です。明治・大正にかけて最盛期を迎え、昭和に入り一旦は衰退した時期がありましたが、戦後の昭和22年に保存会を結成して再興を図って今に至り、国の選択無形民俗文化財になっています。

『三番叟（さんばそう）』では、幕の大松、きらびやかな衣装と気品のある表情、笛の音に合わせた見事な舞に目を奪われました。『本朝廿四孝 十種香の段（ほんちょうにじゅうしこう じゅしゅこうのだん）』では、見事な「三味線の響き・大夫の語り」があり、そのひとつひとつの音に人形遣い3人の息の合った動きがとっても繊細で、人形がまさに生きているようでした。登場した「八重垣姫」「蓑作」の驚き、哀しみといった感情表現が絶妙で、引き込まれてしまう熱演でした。

学生からは、「初めて見ました。情感たっぷり、物語にも引き込まれ、人形が生きているような動き、素晴らしかった。語り・三味線もとてもよかったです。」「刀を抜いたり、扇を開いたり小さな技もさりげなくできていて、人形を3人で操っているのに息の合った技に感動しました。」「人形の表情・所作に引き込まれました。今後も引き続き素晴らしい文化を継承し、広く地域の方を楽しませてほしいと思います。」といった感想がありました。